

合格体験記

■ 受験に至るまで

私が中小企業診断士という資格を知ったのは、地元（愛媛県）で金融機関に勤めていた約 20 年前のことです。数ある自己啓発講座の一つに「中小企業診断士講座」がありました。しかし、当時勤務していたのは個人金融中心の金融機関だったため FP などリテール系の資格取得を奨励していたことから、この時は特に目指したい資格だとは思っていませんでした。

資格取得を真剣に検討し始めたのは、その後転職した東京の翻訳会社に勤めていた 2012 年ごろです。その頃、同時に社会人向けのビジネススクールにも通っており、そのアカウンティングの授業で 2 次試験の事例Ⅳが修了試験問題として出題されました。その試験で良い成績が取れたことで、「今の実力なら診断士試験に受かるかもしれない！」と思ってしまった大いなる勘違い（？）が、その後 3 年にわたる苦難の道の始まりでした。

■ 受験動機

ビジネススクール在学中から、修了後は中小企業診断士を目指して本格的に受験勉強を始めようと思っていました。診断士になりたい理由としては、上記のように自分の力を過信（？）したことに加え、当時の勤務先の社長とソリが合わず、また地元の両親も年老いてきたため、故郷に帰って親のことをケアしながらも、自分の実力を思う存分発揮できる仕事をしたいと思ったからです。

■ 受験歴

受験勉強は、ビジネススクールを修了した直後の 2012 年（平成 24 年）の秋から始め、初挑戦は 2013 年（平成 25 年）でした。当時は東京在住でしたので、大原の通学講座に通いました。結果は 1 次ストレート合格、2 次 BBBA 総合 B で不合格でした。

捲土重来を期した 2014 年（平成 26 年）は、春に地元に戻ったため大原の通信講座で 2 次の勉強だけを行いました。結果は CBBB 総合 B で 2 度目の不合格通知を受け取ってしまいました。

■ AAS で学ぶきっかけ

1 年間準備を重ねたにもかかわらず、前年より評価を落として不合格になったことはかなりのショックでした。今のままでは何回受験しても同じ失敗を繰り返すだけだと思い、これまでのやり方を大きく変える必要があると考えました。まず決めたのは、2 年間お世話になった大原ではなく、それ以外の受験校で学ぶことでした。

大原の 2 次講座は答練と添削を繰り返すのみで、必要な知識の導入やポイントの整理などの面で物足りなさを感じていました。そのため、新しくお世話になるところは合格に必

要な知識面の学習を体系化しているところが良いと考えました。そこで複数の指導校の HP の内容、メール問い合わせの丁寧さ、情報開示の誠実さ等を自分なりに精査した結果、「これイチ」で合格に必要な知識を体系化している AAS 名古屋さんの「見守り通信」を受講することに決めました。

■ 受講期間中

受講期間を通じて最も強く意識したことは、「1 回 1 回の課題に真剣に取り組み、絶対に締め切りに遅れず提出する」ということです。1 次の勉強は、答練や模試の成績である程度自分の実力を定量化できると思いますが、2 次の勉強は自分の力がどの程度ついたのか確認するのがとても困難だと思います。そこで、「現時点の実力（結果）は定量化できなくても、積み重ねた努力（過程）は定量化できる」と考え、とにかく与えられた課題（読み書きトレーニング、新要約練習、設問分解、与件分解、ダメ文校正）を遅れることなく消化することに注力しました。同時に、これまで不足していた 1 次知識の体系的な学習を「これイチ」を使って行いました。

そうして迎えたのが 2 月の第 1 回模試です。全事例とも暗記していた 1 次知識が次々と思い浮かび、終了直後はかなり手ごたえを感じていました。しかし、返ってきた結果は事例 I～III で平均点にさえ届かないという、予想を大きく裏切る惨憺たるものでした。返却された解答用紙には大量の？マークと、「解答がひとりよがりです」「どこに書いてありましたか？」「すべて一般論です」など、知識偏重で与件から離れた解答になっていたことを示すコメントがあふれていました。

実は、この模試の後、2 次の学習は軽いスランプに陥りました。どうすれば合格答案を書けるようになるのか、その道筋が見えなくなってしまったのです。ですので、鷺山先生から復習の課題を与えられた時も、「そんなことをする意味が分からない」という、今から思えば失礼極まりないメールを送ってしまいました（先生にはこの場を借りてお詫び申し上げます）。

幸い、今年は 1 次から再受験する必要があったので、夏までは 1 次の学習に集中する、と割り切ることで 2 次の不調をいたずらに引きずることは避けられました。1 次のストレート合格が決まってからは、新しいものに手を出しても仕方ないと考え、過去問演習と「これイチ」の復習に時間を費やしました。

自分の中で、少し光が見えたと感じられたのは、鷺山先生に勧められた合格者と A 評価解答の分析を行った時です。気づいたことは、

- 合格者&A 評価解答でも、書いている内容は結構バラつきがある。
- キーワードを効果的に挿入している。
- 「どの 1 次知識を使ったか」が分かりやすい。
- 事例テーマとの整合性が高く、解答間の流れに一貫性がある。

といったことで、これらを意識することはその後の学習に大いに役立ちました。実際、こ

これらのことに留意して解答した第2回模試では全体の7位、9月の直前合宿では全体の3位、事例Ⅳではトップの成績を挙げる事ができ、自信を持って本試験に臨むことができました。

■ 本試験当日～合格発表

私は大阪会場でした。早めに到着したため、駅のホームでコーヒーを飲んで時間調整をしながら鷺山先生のブログを読みました。そこで、診断士への志半ばで他界された方がいることを知りました。その方に比べたら自分はスタートラインに立てるだけでも幸せだと思え、少し肩の力が抜けたように感じました。

終了直後は、4事例ともそれなりに上手く対応できたと思ったのですが、翌日再現答案を作る過程で次々と反省点が浮かび上がってきました。また、よせばいいのにLECの合否判定サービスに申し込んで、CBCAという、どう考えても合格しそうな結果をもらって愕然としました。正直、日が経つにつれ自信を失ってきていたので、12月11日にホームページで自分の番号を見つけたときは本当に嬉しかったのと同時に、心の底から安堵しました。

■ 最後に

今回の合格という結果は、AASのメソッドなしでは絶対に考えられませんでした。鷺山先生はじめ講師、スタッフの皆様には改めて心より感謝申し上げます。また、この合格はあくまで新たなフィールドに踏み出すためのスタートラインに立ったということに過ぎないと思っています。これからも、AAS名古屋で得たスキルと人脈を生かし、実り多き人生を歩んでいきたいと考えています。